

## 海軍炭鉱本部庁舎の新築・移転(上) 海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群(15)

戦後の国鉄志免炭業所(志免炭鉱)は戦前は海軍炭鉱でした。開発当時は新原の名が冠せられていましたが、本部庁舎が志免に移転したことから、新原海軍炭鉱は志免海軍炭鉱となります(正式な名称の変遷はもっと複雑ですが、説明を簡略化しています)。

その新築移転時の公文書を引用しておきましょう。以下、図面もJACAR(アジア歴史資料センター)RefC04016865400「海燃採第304号庁舎新営の件、公文備考 K 土木建築 巻20止(防衛省防衛研究所)による。(印)は一部を残して省略。

昭和四年十月十九日 大臣(海軍大臣のこと)海燃採(海軍燃料廠採炭部の略)第三〇四号、庁舎新営ノ件、五月三十日附認許ス。

\*

海燃採第三〇四号 五月十二日進達

昭和四年五月十一日

海軍燃料廠採炭部長(印)

海軍大臣殿

庁舎新営ノ件上申

従来、当部庁舎ハ第四坑所在地ニ有之候処、作業ノ中心地漸ク第五坑ニ移リ候ニ付テハ、事業監督経営上、本年度ニ於テ別紙調査ノ通り、庁舎新営致度候条、御認許相成度。追テ、現庁舎ハ明治四十年ノ建設ニ係リ、既ニ腐朽甚シク、到底移築ノ価値無之候。

別紙 設計ノ要領(図面共) 三葉  
位置 図 二葉 添  
予定経費調査 一葉

この第四坑所在地(旧本部庁舎跡)は現在新原公園として保存されています。新築移転先の第五坑は現在のシーメート付近で、商店街を抜けて上り坂にかかる左手あたりに新庁舎が置かれました。

設計概要書によると、木造平家建(一部二階家、及一部地下室付)となつています。地下に水洗トイレがあったことは、連載第四十五回「広報すえまち」四〇一号、二〇〇〇年十二月)で、発掘現場での見分として報告しています。もう少し詳しく見ると、

此建坪六百参拾式平方メートル  
二階建百四十平方メートル  
内平家建四百八十八平方メートル 総延面積八百拾九平方メートル  
地下室四十三平方メートル

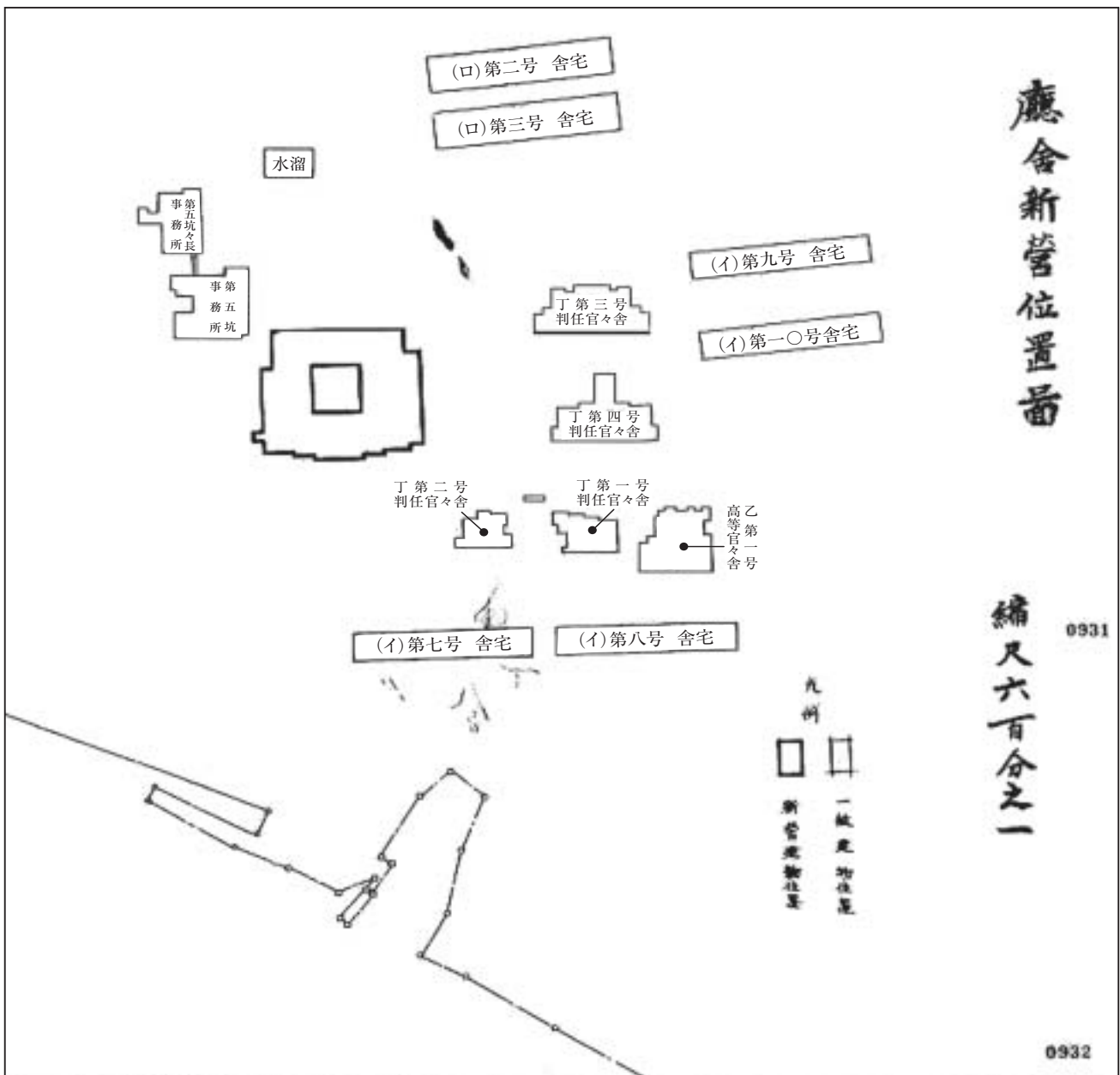
屋根方形造り、勾配三十五厘、西洋小屋、但シ一部陸屋根、外部玄関及側廻り腰人造石塗り、上部「モルタル」塗り、内部床板張り及「リノ

リウム」敷、一部「コンクリート」叩、「モルタル」塗及人造石塗り研出シ、室内一部腰板張り、上部壁及天井漆喰塗り、内外共木部「ペンキ」塗り、一部「ワニス」塗り  
平家軒高、地盤ヨリ軒桁上端迄五米  
二階家軒高地盤ヨリ軒桁上端迄九米八五

床にリノリウムが張られていたことは初めてわかったことです。次に「工事予定経費調査」です。

- 一、金参万円
- 内 訳
  - 基礎工事費 四、〇〇〇
  - 建築費 二〇、三五〇
  - 建具及雑工事費 五、六五〇
- 総工費三万円と見積もられています。

【続く】



第五坑の既存建物と新築庁舎の位置関係